

統合医療への期待

21世紀の予防医学と健康づくり



(絵「花の音楽」/宮迫千鶴)

近年、世界中で代替医療に関する関心が高まり、相補・代替医療 (Complementary and Alternative Medicine: CAM) として認知されるようになりました。欧米では、この CAM と現代医学を併用した統合医療 (Integrative Medicine) あるいは総合医療 (Comprehensive Medicine) という考え方が広まっており、日本の医学界においても、最近注目されつつあります。

古くから漢方医学と現代医学を併用してきたわが国は、ある意味で統合医療をいち早く実践してきた国と言えるかもしれませんが、CAM の範囲は非常に広く、伝統医学 (中国伝統医学、アーユルヴェーダなど) に始まり、アロマセラピー、ハーブ療法、サプリメント、心理療法、音楽療法、ヨガなど、現代人の多くが健康法として日常生活に取り入れているありとあらゆるものが含まれます。

米国においては、多くの国民が様々な CAM を利用している実態を受けて、CAM に関する国家的研究が進められています。わが国においても、近年の健康ブームを背景に、サプリメントなどの CAM が注目されています。感染症の激減により寿命が延長し、慢性疾患が増えた今、国民の関心は疾病の治療のみならず、予防や、健康の維持増進、QOL を高めるセルフケアまで広がり、保健医療ニーズは多様化しています。

すべての国民が正しい情報に基づき適切な健康行動がとれるように、わが国においても CAM の有効性に関する医学的・科学的検証の推進と、保健医療従事者への教育や情報提供体制の強化が求められます。

本特集は、古代伝統医学に始まり現代に至るまでの、わが国における医療の歴史を振り返るとともに、近年欧米で急速に発展している CAM の現状を把握し、今後の医療制度改革や健康増進、健康づくりにおける統合医療の可能性について展望します。